

# 令和5年度第1回みやぎ観光振興会議仙南圏域会議 議事録

## 1 開 会

## 2 挨 拶

## 3 議 事

- 議事（1）第5期みやぎ観光戦略プラン圏域施策の方向性の具体的事業の進捗状況について  
※事務局から説明（議事（1）の市町の取組については各市町から説明）

### 【意見等】

（渡部委員）

- ・観光メインだが、コロナが落ち着き数字も戻ってきた。インバウンドはあまり関わりがなかったが、長老湖の売店をやっており、台湾からの団体客が土日30～50名ほど訪れている。しかし、インバウンドだけに頼ると痛い目にあうこともあるので、そこだけに頼らず地域密着型の観光も大事にしていく。ベガルタハウスは、特に仙台圏からの交流人口の拡大を目指しており、回数も人数も徐々に増えているので継続していく。キャンプ場は、旅行支援が終了してからも予約が入っている。アウトドアも今後も継続して取り組んでいきたい。

（横山委員）

- ・「全国まるもり市」でブルーインパルスを呼んだ経緯は、台風19号で被害を受けた丸森町が復興したことを商工会が全国に向けて発信しようということを実現した。試験飛行の方が天気が良かったが、本番も晴れた。初日2万人、2日目5万人が会場を訪れたが、田んぼのあぜ道などから見ていた人もいた。地域の人はこれを機に頑張っている。インバウンドの話だが、台湾の観光客は仙台空港から丸森の船下りに来て、白石で白石温麺を食べ、その後、銀山温泉や天童温泉と巡っていくという。JTBのノウハウを使って色々仕掛けていくが、舟下りをしてから仙南地域の温泉を巡るというような仕組みを作っていきたい。

（村上委員）

- ・コロナの影響はR3年度が大きく売上は20%減だったが、R4年度からは戻りつつある。6/28の河北新報に大河原の「一目千本さくらみそ」の記事が載っていた。東松島長寿味噌が玉松味噌を復活させたという内容だが、地域の名店の味を復活させることも一つの地域おこしに繋がるのではないかな。

（安倍委員）

- ・花回廊に興味があった。春の一目千本桜には、2週間で20万人が訪れており、次の一目千本桜は何になるのか考える必要がある。生徒を巻き込んだ苗づくりなど、地域一体となって支援していくような風景を作ることができればよいと思う。宿泊業は食に関わりが深く、なるべく地元のものを出したいと思っているので、何かあれば情報提供いただければ、ありがたい。

（一條委員）

- ・鎌先温泉は比較的小さな宿が4軒で、コロナで痛手を被るというよりは堅実に過ごしてきた。お客様は食事を楽しまれており、出かける時は「食」が必ずキーワードになるので、地元の食の強みを活かすべきだ。食、芸術、花などの地域資源を掘り起こし、周遊に繋げていけるとよい。今は量よ

り質の時代。温泉に泊まりながら、探索するという観点からは、サイクリングは良い取り組みだと思う。白石温麺がテレビ番組「ケンミンショー」や「出川哲郎の充電させてもらえませんか？」で取り上げられ放送されるが、この機会を使い、さらに盛り上げていきたい。

(伊藤(直美)委員)

- ・仙南は初めての勤務。3年ほど開校に向けて関わっていたが、大崎市に住んでいるため、勤務して仙南地域の資源の豊かさが分かった。大河原産業高校は現在1年生しかいないが、3つの学科があり、各学科がコラボして地域活性化に貢献出来ればと思っている。チャンスがあれば、高校生の視点で素敵なものを見つけ出し、いくことができればと思っている。生徒に地域のことを教えていただく機会があればありがたい。大人と接することは高校生にとって良い機会になる。

(大沼委員)

- ・遠刈田温泉は蔵王のお膝元。新緑、紅葉、樹氷と年間を通してたくさんのお客様がいらしている。コロナ禍では、県内客や教育旅行が近場ということで多く訪れ、宮城県内の人に改めて蔵王の魅力を知ってもらえる機会となった。宿泊業は県民割などが手厚かったが、なくなってどうなるか心配。ウクライナ侵攻等で物価や燃油高騰しており、何の支出を控えるかという宿泊等の観光関係が最もされやすい。GW明け県民割が終わり、予約の入りは少なくなっている。インバウンドは6月はさくらんぼがあるため山形が強い。宮城蔵王まで入ってくる人は少ない。個人客ではなくツアー関係がまだ多いが、団体客を取れる旅館は山形に比べ、仙南地域はそんなにない。

(大宮委員) ※代理：鈴木氏

- ・定期観光バスの運行が決定した。早くて9月遅くて10月から開始予定。仙台駅東口を出発し、みちのく公園、遠刈田温泉、キツネ村というルート。既に仙台空港～仙台駅東口のリムジンバスがあり、それとの接続を利用する。仙台空港から走っているバスはタケヤ交通のみ、赤字だが漢気があるからやっている。この会議では仙南地域の様々な観光に関わる人達が集まっているので、地域の旅行商品を1本でもよいので作りたい。

(小野寺委員)

- ・インバウンドは今までも実感したことがなく、店で海外の方を見たことがないが、一方で近隣の方にはたくさん来ていただいております、コロナ前の状況に戻っていると感じている。リピーターになっていただいている方もいるのでそうした方々を大事にしていきたい。
- ・地元の農家さんと飲食店がコラボして、質の良い農産物を繋げられる仕組みがあれば、地域のブランドに繋がっていく。行政でも担当が異なる複数の部署が連携してうまく繋げていけるとよい。
- ・日中に多くの人数を受け入れられることから、高校1、2年生のBBQ客が増えてきており、今後学校関係ともコラボしていきたい。一方で、受入体制の問題があり、従業員が対応できないといったジレンマがあるが、何とか乗り切っていきたい。

(笠原委員)

- ・各市町の取組を聞き、頑張っている印象を受けた。引き続き広域での連携を強めていただければと思う。振興事務所には、観光人材育成セミナーに期待している。セミナーだけではなく、実務者同士の連携を深めていける機会としてほしい。酪農センターの最近の状況としては、令和2年度は売上が30%落ちたが令和3、4年度は徐々に回復し、令和5年度はコロナ5類移行など追い風が吹き、GWはかつてない程の売上となったがその後は少し落ち着いている。買い控えの傾向があるのではないかと思う。人々に選択されるような魅力があるものを作っていければと思う。

(嶋崎委員)

- ・いろいろなプロモーションや地域連携の取組などそれはそれでよいと思うが、要は、行きたいと思うような場所やお店があることに尽きる。アクセスが悪い場所でも行く価値があれば人は集まる。より魅力的な場所にできるような、事業や枠組みを作らないと、観光客が戻らないところは戻らないままではないかと思う。物価高騰等で行ける場所も限られてくるので、選ばれるかどうか。インバウンドは意外と増えている。4月は3割が外国人客だった。これまでは台湾が多かったが、今はアメリカ人もいる。
- ・地域おこし協力隊の話が出たが、自治体が役場がすべき役割を押し付けているのではないか、特定企業を支援しているだけではないか等、制度運用がどうなのかという話をよく聞く。地域のためになっていけば良いのだがと思う。

(佐藤委員)

- ・各市町の課長全員にお越しいただくことができた。毎日蔵王連峰を眺めて通勤をしており、仙南地域での蔵王山の存在の大きさを改めて感じているが、蔵王は、関東などの外部からは山形のイメージが強く宮城の認知度が低い。じゃらんの調査では蔵王が4位となっていたが、山形蔵王として載っていた。今後、宮城蔵王の認知度を高めていくきっかけは2つあると思う。1つは、蔵王ジオパークの動きであり、8月に現地調査があり、今年度中に認定となるよう蔵王町の取組をバックアップしていきたい。もう1つは、11月にオープンする村田オルレ、様々な角度から美しい蔵王山を見ることが出来る。
- ・インバウンドについては、雪の壁ウォークや一目千本桜、キツネ村はキラーコンテンツになるのではないか。また、インバウンドだけではなく、マイクロツーリズムも大切であり、インバウンドとマイクロツーリズムのツートップでの政策を重視していければと思う。

(宮原委員)

- ・観光の発信受信はSNSが標準になっているので、今後より充実させて情報を求めている方に届くように発信していくとよい。食に関して、仙南地域はスイーツを推しているが、何でもある、ではなく推しがしっかりあることがアピールポイントになる。大河原のサイクルツーリズムでは「みやぎ蔵王三十六景」を活用して、デジタルスタンプラリーをすることのことで、既にある資源を活用していければよいと思う。横山委員がおっしゃった山形にインバウンドが流れるという話が印象的。加美町は銀山温泉と平泉の中継地点として連携している。仙南も山形と近いので、観光客に喜んでもらえる魅力的なルートの提案が必要。

■ 議事（2）みやぎ蔵王三十六景地域の逸品の推奨について ※事務局から資料2により説明

【質問・意見なし】

→3品目について推奨承認された。

■ 議事（3）その他

- ・観光政策課及び観光プロモーション推進室より情報提供。
- ・「蔵王火山砂防フォーラム」における蔵王高校プレゼンテーション動画を放映

4 その他

(以上)